製品·付属品 O-04

フラッシング

板厚

フラッシングの板厚は、デッキプレートの板厚と同等にするようになっていますが、隙間の大小とコンクリート厚さで決定すべきではないのか。

製品·付属品 A-04

「デッキプレート床構造設計・施工規準-2018」や国土交通大臣の耐火構造認定では、フラッシングもデッキプレートと同様、耐力(コンクリート打設時の型枠として)、耐久性、及び火災時のコンクリート面への火炎の遮断性等の機能が要求され、デッキプレートの一部と考えられますのでデッキプレートと同等以上の板厚とすることにしています。コンクリート打設時の型枠性能として、デッキプレートと梁との隙間が小さく、コンクリート厚さが薄い場合、フラッシングの板厚は 0.8mm や、1.0mm でも十分な場合もありますが、上記の通り火炎の遮断等、別の機能も必要となりますので安全性を鑑み、デッキプレートの板厚以上としています。

逆に隙間が大きくコンクリート厚さが厚い場合でも、フラッシングの最大幅 200mm、かつデッキ合成スラブとしてのデッキ山上コンクリートの最大厚さ 100mm の制約条件の範囲であれば、デッキプレートと同じ板厚にすれば安全と考えられます。

なお、コンクリート打設時にフラッシングに作用する曲げ応力は、デッキプレートの割付け方向に生じます。そのため、デッキプレートと梁との間を支持する単純梁と仮定して構造安全性を検討することで、構造上の必要板厚を計算できます。増し打ちや段差など、フラッシング部分のコンクリート厚さが厚くなる場合は、前記内容に係らず板厚の検討が必要です。

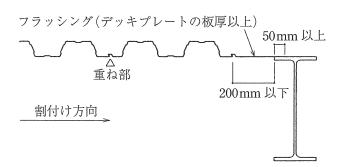


図 1 フラッシングを用いて調整する例

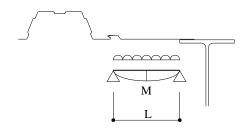


図2 フラッシングに作用する曲げモーメントの考え方